

⑧電磁開閉器がバタツキ動作（完全に投入しないで途中でばげしく振動する状態）をするときは継続使用しないで下さい。接点溶着、釈放不良などの事故になるので、原因を調査してバタツキ動作しないようにして下さい。

⑨不要の接点を取りはずして使用しないで下さい。バランスが崩れて、接点寿命、性能に悪影響を及ぼすことがあるので、不要の接点でも取付けたまま遊ばせて使用して下さい。（このとき端子ねじも十分締付けておく必要があります）

サーマルリレーの取扱いについて

①サーマルリレーへの配線は適正な太さの電線を使用して下さい。電線が細いと動作時間が早くなり、太いと遅くなります。

②サーマルリレーの整定電流目盛は、モータ全負荷電流に設定して下さい。時々動作するからといってモータ全負荷電流以上の値に設定しないで下さい。何らかの原因があって動作するのですから、原因を調べて除去しなければ大きな事故のものになりかねません。

③サーマルリレーに風をあてた状態で使用しないで下さい。サーマルリレーの動作が遅くなります。

④サーマルリレーのリセットは電源の入ったままで行なわないで下さい。始動用押しボタンを押さない限りモータが始動しない回路になっている場合は問題ありませんが、サーマルリレーのリセットボタンを押すと同時にモータが始動するような自動運転回路（ポンプ、コンプレッサなど）では安全面あるいはモータ保護面

で電源を切ってからリセットすることが必要です。また、リセットは動作した原因を除去してから行なわなければなりません。（自動復帰の場合はご注意ください。）

⑤短絡事故があったときはサーマルリレーを新品と交換して下さい。ヒーターが溶断しているか、溶断しかかっていて動作特性が変化している可能性がありますので交換して下さい。

⑥調整つまみは表示範囲以外に回さないで下さい。

接点の保守

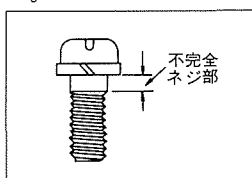
接点は使用中、酸化皮膜や硫化皮膜で黒ずむ場合がありますが性能上まったく支障ありませんのでそのままご使用下さい。

ネジの締付

①長い間には、振動などでネジがゆるんでくることがありますので、各部のネジを月に1回程度は点検してください。ゆるんだまま使用すると、その部分が加熱し故障の原因になります。

②電磁開閉器において電磁接触器とサーマルリレーの結合部には、ネジとスプリングワッシャーが一体化されたセムスネジを使用している場合があります。セムスネジには不完全ネジ部がありますので接触器からサーマルリレーを切りはなして使用する場合、不完全ネジ部が締込まれないように、平ワッシャーなどを入れて締付けてください。

●セムスネジの不完全ネジ部



接続について

電磁開閉器の端子間配線のうち、使用ひん度の高いもの（C2～96など）は配線した状態で出荷しています。しかし、設備に組込まれているものでは、この配線を外し、異なった接続とされていることがあります。交換用の製品とご使用されていた製品を照合いただき不要な配線があればお取外しのうえ交換して下さい。余分な配線があることに気付かずご使用されますと思わぬ事故になることがあります。

コイルの保守

許容の電圧変動は規格で定めておりますように、定格の85～110%であります。電圧が高過ぎると吸引の際衝撃が大きくなり、各部に悪影響をおよぼすばかりでなく、コイルを加熱し、コイルの寿命を短くします。電圧が低すぎると電磁石の吸引する力が不足するためマグネットに喰りを生じたり、接触子の接触圧力が弱くなるため溶着現象をおこしたりいたします。したがって許された電圧の範囲で使用するようにご注意ください。

電磁石の接触面

接触面にゴミがついたり、サビが発生すると、うなりの原因になります。

●ゴミのついている場合

布でふいて、手入れをしてください。

●サビのついている場合

サンドペーパーを平らな台にのせその上で、サビ面を下にして軽く平たんにみがいてください。

端子ネジの適正締付トルク

端子ネジ	適正締付トルク (kg-cm)
M3.5	10
M4	15
M5	35
M6	50
M8ボルト	100
M10ボルト	140
M12ボルト	200